

平成22年度 第2回CCC体育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 : 平成22年1月24日(月) 午後3時30分から午後5時30分

II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者: 石塚委員 手塚委員 田附委員
(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

事務局から学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案について検討することの説明及び他の委員会の状況などの検討状況の説明がなされた。

検討の視点は

(1) 学士力実現に必要な授業モデルを検討する。

- ・ 学士力は大学4年間で身に付ける力として考え、世の中の動向を踏まえて5年先を見据えた授業モデル案を検討する。
- ・ 自己、社会との関連付けをしながら学士力を身に付け、社会で通用する力を付けさせる授業モデルを検討する。

(2) 学びを身に付けさせる授業モデルを検討する。

- ・ 単位の取得でなく、教養と専門を融合させた本質的な学びによる幅の広い人材育成を目指すべきである。
- ・ 振り返りの学習プロセス、発表・プレゼンを通じた学習成果を社会へ発信し、ファシリテータの活用等、学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデルを検討する。

(3) 委員が作成した授業モデル案について

①到達目標2-④について委員から紹介があった。

運動を取り入れることにより、健康な体づくりに取り組むことができる。

入学時の身体測定で自らの状況を把握し、大学内や全国の状況と比べ、比較し理解していく中で細かく自己の健康や運動能力のレベルを知り改善し、身体活動の実践を行う事例。

- ・ 授業方法は実技と講義の組み合わせ
- ・ 自らの実践と経験を踏まえて他を指導する力を養う。
- ・ プロフィール→理解 プログラム→計画を立てる 実践する。

検討資料により、検討のバックボーンの確認を行い、授業モデル案について考え方の整理を行った。

授業モデルのイメージ

- ・ モデルは1つの授業をイメージしても良いが、卒業委までに身につける力
- ・ それぞれの大学で使えるものを取り入れる。
- ・ 理想論でも大学で今はできないが、こう双発的な授業デザインができればよいことを検討する。
- ・ 内容は実技と講義の組み合わせで検討する。
- ・ 健康意識の価値観をデータで示す。
- ・ 競技力、体力に興味がある学生が多く、健康については意識の価値観の違いで、基本的理論を教えても実際に行動に移すのが難しいとの視点から、到達目

標2の①～④を含めたモデルを検討してはどうか。

- ・ グループ学習やチームで協働学習をし、ポートフォリオを活用し、振り返り学習をするのも効果的
- ・ スポーツコミュニケーション能力の育成、チームワーク、チームの成長を考えられる力の育成も重要
- ・ 自己評価は学生の思い込みがあるため、評価が難しいとの難点もある。そこで、大学で初めて経験するスポーツ(ディスクゴルフ、ドッジビー、アルティメイトなど)をグループ学習し、どのようにコミュニケーションが取れたかを、自分の評価だけでなく、クラス全員に評価させる。
- ・ スポーツコミュニケーションの因果関係、重要性などを理解することで、社会に出た時にライフワークバランスがきちんと取れるようになる。それを考えさせるためには、スポーツ施設の人などに具体的な事例を聞いたり、映像などを見るのがきっかけとなり、考え、理解できる。
- ・ 学生間の教えあい、チームでの学びあい、振り返り学習、社会人の事例や、社会人をイメージして考えさせることで生涯スポーツなどにつながる学習などについても検討された。

②到達目標3について

スポーツ競技に「関する知識。技能を習得し、スポーツ振興・普及に活用できる。

- ・ トレーニング計画論のモデル
- ・ この学習で学生が中学生などに対しコーチ実習などを指導できる力を付けさせるモデル。
- ・ 年間トレーニング計画、コントロールテスト、ピッチストライド、ダートフイッシュ社トレーナー、映像絞込み データなどでトレーニング計画を進めていく力を身に付けるモデル。
- ・ 日本ではまだ取組が少ない事例
- ・ スポーツ科学の専門知識を身につける 理論+体感+α

2. 次回までの宿題

各委員が本日の授業モデル案をさらに検討を深めて作成する。

5年先を想定した双発的な、理想の学習モデルにする。

現在の状況と5年後の目標をどう埋めるかを考えて実践していくモデルとしたい。

到達目標2－⑤次回までに検討する。

到達目標3－①次回までに検討する。

3. 次回の開催日程

日時：平成23年3月30日(水) 午後1時30分から午後3時30分

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室